

開館25周年記念

石川功一 軽井沢の草花展

石川功一《レンゲショウマ》2000年頃 カンバス油彩 15号
Koichi Ishikawa 《Rengeshōma》 Around 2000 Oil on canvas 15F

小さな美術館 軽井沢草花館 2021 4/24 土 - 11/23 祝

開館時間 10:00 ~ 17:00 入館料 500円 (中学生以上)、小学生以下無料

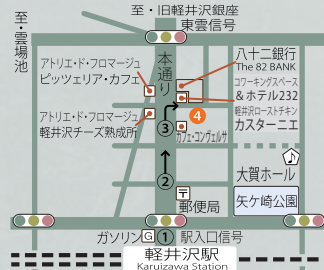
休館日 火曜日 但し、5/4、11/23は祝日につき開館、また8月は無休 尚、11/24以降冬期休館

<https://kusabana.net> Tel.0267-42-0716

Petit Museum KARUIZAWA KUSABANAKAN. 19-40 Karuizawa-higashi Karuizawa-cho kitasakugun Nagano 389-0104, JAPAN. 〒389-0104 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 19-40



- ④ 右折後、40m先の右側
 - ③ 八十二銀行の手前を右折
 - ② 本通りを旧軽井沢銀座方向
 - ① 軽井沢駅北口
- 軽井沢駅から約500m
駐車場5台あり(無料)



開館25周年記念

石川功一 軽井沢の草花展

Kōichi Ishikawa water & oil painting exhibition. 25th anniversary of opening

画家・石川功一(1937-2007)の個人美術館として誕生した軽井沢草花館は今年で開館25周年(1997-)をむかえました。本展では、軽井沢自生の草花図(水彩と油彩画)約40点の他、25年目の記念展示として石川功一のマンガ、イラスト、人物画、風景画等、画業の軌跡を辿る作品を数点ずつ公開します。マンガ家として出発した20代、画家として本格的な活動を始めた30代、そして軽井沢で草花に出会い、草花図の制作に生涯を捧げた40代以降の作品を一堂に集めました。石川功一の画業変遷や人物像と照らし合わせながらお楽しみ下さい。



《ゆうすげ》左(1990 水彩スケッチ), 右(2004 キャンバス油彩30号)

小さな美術館 軽井沢草花館 (かるいざわ くさばなかん)

画家・石川功一が描き続けた軽井沢自生の草花図(水彩スケッチと油彩画)を展示する小さな個人美術館。石川功一の草花油彩画百数十点と水彩スケッチ(約950種、3,000余枚)をはじめ、人物デッサン、人物、風景画を所有し、草花図を中心とした様々な企画展を開催している。

軽井沢に自生する草花を愛した石川功一の経歴と活動

1937年(昭和12年)三重県伊賀市阿保(旧・名賀郡青山町)で開業医の二男として出生。20才の時に大志をいだき東京に出奔、マンガ家となる。その後、画家への道をめざしデッサンに明け暮れる。30才の頃より描きはじめたドローイング「人間戯画」が銀座の画廊に認められ、援助を受けることになる。以降、人物画を中心に画家としての活動を続ける。1981年(44才)、個展のため軽井沢を訪れたことが縁で草花と出会い、草花画が本来目指すべき道だと悟り、草花のスケッチと油彩画制作に新しい境地を開いた。草花本来の姿を描き取るため、スケッチは自ら軽井沢の野山を駆け巡り、自生している状態を描き続けた。油彩画は背景の色を何層にも重ねる独自の画法で、日本画のような繊細な画風を生み出した。



近年開発の中で自生地が狭められ、消えゆく草花が増える中、「軽井沢の自然に息づく草花の永遠の命を残す」をテーマに草花画の制作を続けた。2007年7月永眠(満70才)

記念展示 マンガ、イラスト(連載4コマ漫画等、未発表作品含む)



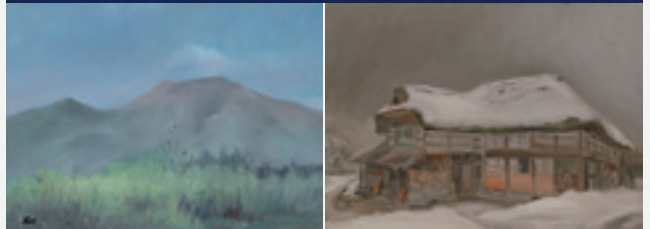
《天女》1968-69 《星のピエロ》1969-71 《カラスvsアスター》1972-91

記念展示 人物画(独自の画法で描いた草花画までを辿る油彩画)



《子供》1968 油彩4F 《二人の女》1971 ペン画 《由加》1982 油彩6F

記念展示 風景画(浅間山、南会津の曲がり屋等)



《浅間山》1991 キャンバス油彩4F 《南会津の曲がり屋》1987 キャンバス油彩4F

